

## テレワーク下に求められる発達障害者への配慮

コロナ禍の影響でテレワークが普及しましたが、発達障害情報・支援センターのアンケート調査によると、発達障害者には次のような影響が出ています。

### ■オンライン上でのコミュニケーションが困難

発達障害者には、相手の表情やジェスチャーを理解できない、言葉の裏の意味を理解できない等の特性があります。オンラインでは、さらに相手の表情やジェスチャーが伝わりにくくなり、「ふだんより、言われたことを理解するのに時間がかかる」「どのタイミングで発言すればよいのか、よくわからなくて戸惑う」等、コミュニケーションがさらに困難になっています。

発達障害者には感覚過敏のある場合も多く、雑音や画面の明るさなどで「相手の話に集中しにくい（画面に映っている物が気になってしまったり）」等の回答も見られます。また、「3人以上になると、誰が話をしているのか、よくわからなくて戸惑う」等、オンライン上でのコミュニケーションに疲労を感じます。

■自己管理が困難  
生活が大きく変化したこと

で、「昼夜逆転」「気分の浮き沈みが大きくなった」「身体的な不調が増えた」等、生活リズムの崩れも見られます。

発達障害者には自己管理の苦手な人が多く、先の見えな生活に強いストレスを感じていることから、自己管理がさらに難しくなっています。

### ■発達障害者だけの課題ではないという視点で対応を

オンライン上での相手の表情がわかりにくい、ジェスチャーが伝わりにくい等の課題は、発達障害の有無を問わず共通であり、オンライン上では曖昧な言葉を使わず具体的な事例を出す等のわかりやすいコミュニケーションが求められます。

生活リズムの崩れについては、毎日決まった時間に電話で話をする等の管理も必要かもしれません。

発達障害者特有の困難さを理解しながらも、同時に発達障害者だけでなく、誰にでも関係する課題として対応する姿勢が求められます。

社会保険労務士  
岩田 由美

岩田由美社会保険労務士事務所代表。障害年金に関する業務をメインに行なう。主に発達障害者の就労支援を目的に、一般社団法人障がい者才能開発支援協会を設立。